

多数決で決めると、ほぼ確実に間違える。

集団の思い込みを打ち破り、真の信頼を築くための思考法

PHOENIX愛知 / 思考のパラダイムシフト

Gemini Notebook

「みんながそう言っている」

それは、正しい理由にはならない。
みんなが同じように間違えている
可能性があるからだ。

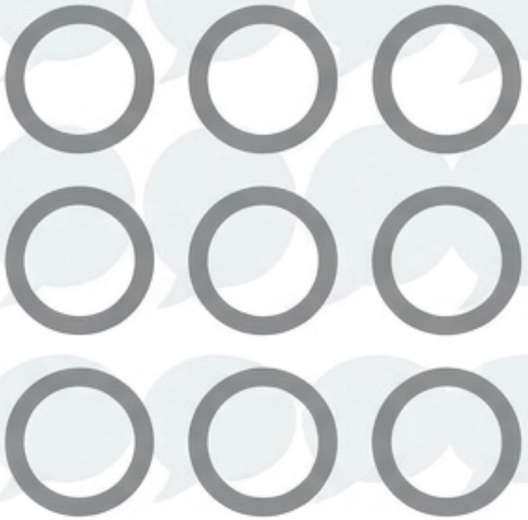
多数決が力を発揮する唯一の前提：
「一人ひとりに判断する力があり、
周囲に流されず考えていること」

Gemini Notebook



よく分かっていない人の
自信満々な断言

×



根拠を確かめない
周囲の「同調」

≠

~~十人分の~~
知恵

＝

**一つの思い込みへの
「十票」**

正しさを確かめた人は増えていない。
賛成する人だけが増えてているのだ。

Gemini Notebook

自信満々な断言
（よく分かっていない人が主張する）



無検証のうなずき
（周囲が「そこまで言うなら」と同調する）

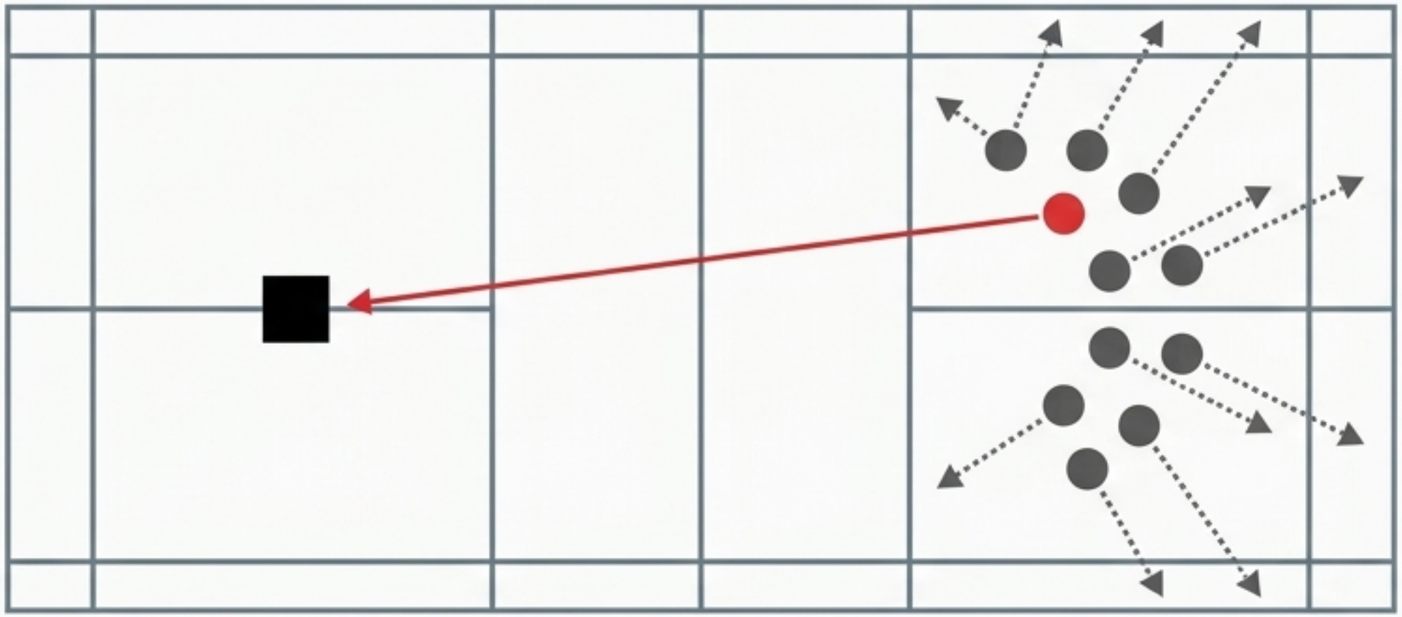
賛同者の増加
（数が「正しさ」の錯覚を生む）

確信の深化
（最初に断言した人の自信がさらに深まる）

Gemini Notebook

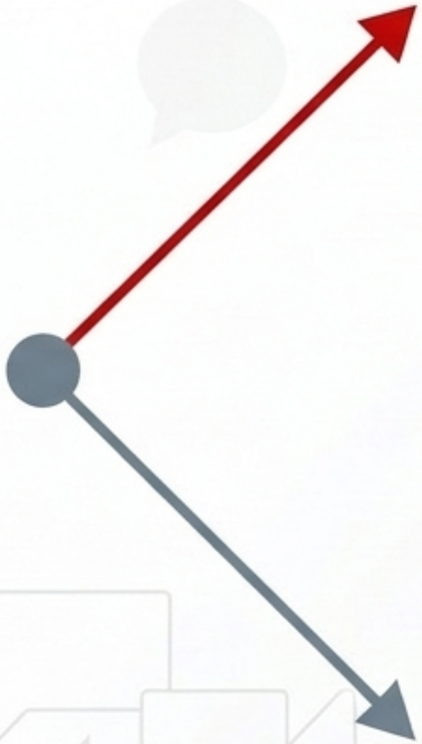
現実は、多数決では覆らない。

バドミントンでも同じだ。相手の構えを見ている一人の意見を、そこを見ていない九人の賛成で退けても、配球がよくなるわけではない。



少数派なら正しいわけではない。問うべきは、人数ではなく「判断の根拠」だ。

Gemini Notebook



「分からない」と言える → 問いを立てる → ◆ 学びの始まり

賛同者が増えた瞬間に、確かめる必要を感じなくなる。
それが最も怖いことだ。　— レンの感想より

「分かっているつもり」→ 確かめることをやめる → ■ 右に倣えの過信

Gemini Notebook

うなずくことも、一つの「行動」である。



「自分が言い出したわけではない」
「みんなも賛成していた」



自分が加えたその一票が、誰かの思い込みを強め、必要な異論を押しつぶしている。
そのうなずきで、何を後押ししたのか？

Gemini Notebook

場の勢いを止める、魔法の一言。



「その根拠を
教えてください」

賛成の輪の中で、この一言が言える人を大切にしたい。その一言は場の勢いを止めるかもしれないが、集団が間違いへ進む足も止められるのだ。

Gemini Notebook

偽りの同調 vs. 真の信頼関係

比較軸	偽りの同調	真の信頼関係
前提	分かっているつもり	「分かりません」と言える強さ
行動	根拠なくうなずく	根拠を問い直す
集団力学	思い込みを強め、異論を潰す	場の勢いを止め、間違いを防ぐ
結果	多数決によるお墨付きの「間違い」	事実に基づいた「最適な判断」

Gemini Notebook

仲間である証明は、同じ答えを出すことではない。

シンさんの言葉に勢いよく賛同するだけなら、私も「右に倣え」の一人に過ぎない。
共感することと、根拠を確かめること。
その両方を引き受けてこそ、伴走する意味がある。



一緒に間違いを直せることこそ、信頼の証しだ。
安心してうなずける関係以上に、安心して問い直せる関係を。

Gemini Notebook

票を数える前に、根拠を確かめろ。

賛同者の数は、考えた人の数とは限らないのだ。

Gemini Notebook